

2016 年度

中国留学コース報告書

実習先：北京師範大学
実習期間：8月29日（月）～1月7日（木）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21015127
渡辺光紀

目次

1	留学先及び留学期間.....	3
2	留学先概要.....	3
3	留学の目的.....	3
4	留学の内容.....	4
	4-1 留学のスケジュール.....	4
	4-2 留学の詳細.....	5
5	所感.....	5
6	おわりに.....	5
	謝辞.....	5

1 留学先及び留学期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学科

留学期間：8月29日（月）～1月7日（木）

2 留学先概要

(1)大学について

北京師範大学はその頭に冠するように北京の中央部に位置している。22の学院、6の学部、14の専攻研究所、数万人の学生を擁する非常に大きな総合大学であり、1902年に創設されて以降、中国近代文学の父と呼ばれる魯迅が教鞭を取ったり、ノーベル文学賞を受賞した莫言を排出するなど長い歴史と教育の確かな実績を持つ。特に人文科学の面に関しては名高く、歴史学、心理学の分野では国内一位との評価があり、政府からも中国の重点大学の一つとして認可されている。

(2)大学で行われている教育について

北京師範大学はその人のレベルにあった教育を施すという事に関して非常に気を配っており、留学すると筆記だけでなく、面接方式のテストを行い、クラスを設定する。その後、個人の裁量でついていけないと感じるようなら教師に相談して下のレベルに移ることができるし、上のレベルにも相応の試験の下でその実力が確認され、基準を満たせば移ることができる。その他、生徒の自発性に答える為生徒の疑問を解くことを目的としたクラスがあるのは特筆すべきところだ。

3 留学の目的

留学するにあたり、語学力の向上はもちろんだが、異文化に直に接してみたいという端的な興味がある。特に中国は日本と位置的にも経済的にも密接な関係にあるせいか、摩擦と緊張を報じるニュースが頻繁に流れている。実際どのようなものなのか確認したいというのも目的の一つだ。返って、語学に関して具体的に言えば HSK 四級を獲れるレベルの語学力を身に付けたいと考えている。四級の基準は「中国語を用いて広範囲の話題について会話ができ、中国語を母国語とする相手と比較的流暢にコミュニケーションをとることができる」である。ネイティブと違和感のない中国語で、スムーズにコミュニケーションが取れる指標としてこれを獲得できるように取り組むつもりだ。その他、中国人の友人を作って日本の友人と同じように映画を見に行ったり、バスケットボールをしったりして親交を深めることができれば良いと考えている。

4 留学の内容

以下から留学の内容を記述する。
研修期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4-1 留学の基本スケジュール

留学期間中の基本スケジュールは以下のとおりである。

月曜

听力, 会話, 初級报刊阅读

火曜

读写, 听力

水曜

会話, 读写, 太极拳

木曜

会話, 听力, 中日文化交流

金曜

读写, 辅导

土曜・日曜

休日

4-2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i) 听力

20人規模で行われる授業。リスニングの強化を主な目的としており、単語を予習した後その単語で構成された中国語の文章を聞き取るというのが授業の流れ。

ii) 读写

20人規模で行われる授業。リーディングの強化を主な目的としており、単語の意味を教師の様々な質問に答えながら確認する。その後、長い文章を読み解いてゆき最後はその文章に沿った筆記の問題を解く。

iii) 会話

20人規模で行われる授業。コンヴァーセッションの強化を主な目的としており、二人一組で習った中国語の表現を使い会話する。

iv) 辅导

自由参加の授業。中国語を学習していく中で疑問に思った事や分からない問題を教師に尋ねて、さらなる学習に繋げる目的がある。

v) 初級报刊阅读

新聞を読む事に特化した授業。週の初めに読んだ新聞の纏めをクラスの前で発表し、質問を受け逆に問題を問う。習う単語も日常生活というよりは政治や経済の用語が多い。

vi) 太极拳

太極拳の授業。屋外の大きな広場で、先生の動きを真似ながら太極拳の動作をマスターしていく。

vii) 中日文化交流

空海や魯迅など、中国と日本のどちらにも接点がある偉人について学ぶ。発表の機会があるときは自分で調べて編集するなど PC の操作のスキルを学ぶことができる。

5 当初目的・目標への達成度

i) 語学力の向上

予定していた通り、四級に合格することができた。それに加え、行きの飛行機では聞こえなかったキャビンアテンダントの話も帰りの便では分かるようになっていた。一定以上の成果を得て、目的を達成できたと思う。

ii) 異文化理解

特に食に関して、日本と異なる部分を見つけることができた。拉麺の具や麺の太さが日本と全く違っており、日本の物は日式拉麺という呼び名がされていることに驚いた。

iii) 中国人の友人との交流

映画を見に行くことやバスケットボールで交流を深めることができた。観光地に案内してもらい、見て回ることもできた。

6 反省・課題

三ヶ月を過ぎた段階で、モチベーションの維持が課題になった。最初は食事にも困る語学力で食いつくように授業に励み、復習もしっかりやったが、食に困らなくなり、その他のコミュニケーションをするのにもあまり困らなくなると徐々に気が緩むのを感じた。これは反省すべき点だったと思う。日本でも語学の勉強を継続し、スキルを磨くためにもこの点は改善すべきだろう。

謝辞

留学中、様々な面でサポートをしてくれた何玲玲さんと北京師範大学でお世話になった多くの老师、学生、そして日本人会の方々。また、留学の準備や手続きでお世話になった担当教員の佐藤若菜先生と區建英先生に精一杯の感謝を。最後に、本大学からいただいた奨学金により、いい留学ができました。感謝します。